

◇編集後記◇

新たに副編集委員長として編集の業務に加わることとなりました武林です。任期の途中からとなりますが、どうぞよろしくお願いたします。2013年のスタートとなる第55巻の1号にも、重要なトピックが掲載されています。英文誌には、東日本大震災に関連した報告が2報。Moriらは、福島第一原発事故後の復旧作業に関わる作業員への産業保健支援を大学を挙げて行った経験からの今後への提言を、Kitamuraらは、大震災発生時の行政職員のメンタルヘルスに関する調査結果を、それぞれ報告しています。一方、Mohideenらは、1-プロモプロパンの神経毒性メカニズムのうち、脳神経細胞への影響について報告しています。これは、この領域で世界をリードする研究グループが長年にわたって継続している研究テーマの最新の報告です。いずれの報告も、世界へ発信するのに相応しいオリジナリティとタイムリーさをもっており、産業衛生学会の一会員としてこうした成果が相次いで掲載されていることを嬉しく感じます。また

和文誌には、定期健康診断における心血管危険因子の有所見率の10年間の推移および日本の職場におけるメンタルヘルス一次予防対策に関する費用便益効果分析の結果が報告されており、いずれもわが国のpracticeとしての産業衛生の発展に貴重な情報を提供しています。私にとっては、およそ4年ぶりの編集業務となりましたが、査読システムもWeb化され、投稿者にとっても査読者にとっても利便性が著しく改善されています。情報過多の時代にあっては、質の高い情報を積極的に発信していくことの重要性が、以前よりも増しています。産衛誌ならびにJOHは、日本産業衛生学会からの情報発信の中心的媒体として、会員みんなで育てていくべき大切な存在です。査読を通して投稿された論文がより良くなるよう、編集委員会一同努力しておりますので、会員の皆さまにおかれましては、質の高い研究成果の投稿と査読へのご協力をどうかよろしくお願いたします。

(武林 亨)

「産業衛生学雑誌」編集委員会

委員長：益島 茂（三重大）

副委員長：樺田尚樹（国立保健医療科学院）、杉森裕樹（大東文化大）、高尾総司（岡山大）、
武林 亨（慶應大）、玉腰暁子（北海道大）、那須民江（中部大）、西田和子（久留米大）、
平工雄介（三重大）、藤野善久（産業医大）、毛利一平（三重大）、八谷 寛（藤田保健衛生大）

石竹達也（久留米大）、井上和男（帝京大）、植嶋一宗（津保健福祉事務所）、梅津美香（岐阜県立看護大）、小笹晃太郎（放射線影響研）、萱場一則（埼玉県立大）、川口陽子（東京医歯大）、熊谷信二（産業医大）、黒沢洋一（鳥取大）、近藤尚己（東京大）、酒井一博（労働科学研）、佐々木美奈子（東京医療保健大）、菅沼成文（高知大）、田中昭代（九州大）、田中紀子（国立国際医療研究センター）、土井由利子（国立保健医療科学院）、中尾陸宏（帝京大）、中村裕之（金沢大）、馬場園明（九州大）、原田浩二（京都大）、東 尚弘（東京大）、福島哲仁（福島県立医大）、堀口兵剛（秋田大）、丸山総一郎（神戸親和女子大）、三木明子（筑波大）、三宅達郎（大阪歯大）、村田勝敬（秋田大）、八幡勝也（産業医大）、大和 浩（産業医大）、吉田貴彦（旭川医大）、渡邊博且（産業医大）

〒160-0022 東京都新宿区新宿1丁目29番地8 公衆衛生ビル4階

電話 03-3356-1536 ファックス 03-5362-3746 振替 東京 00100-7-133495 番